

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名 佐久市立平根保育園

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。

「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1 保育 内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 □ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	<p>○佐久市の保育理念に基づいた上で本園を取り巻く状況や子どもの姿を踏まえた保育課程が作成されています。</p> <p>○保育課程を保育計画に生かし、どの保育士も1年を通して偏りのない保育を目指すよう月案から週日案、個別指導案にと一貫性をもってつながっている。ただ、佐久市保育園全体の主任会で作成・検討をしているため、貴園の子どもと家庭、地域の実態を考慮して更に検討されることが望まれます。</p> <p>○週日案では、職員間で話し合いながら子どもの発達や興味関心に沿い立案しているため、実践に対する評価・反省を活かした保育が行われています。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 □ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>○内装には木材が使用され、古いながらも落ち着いた環境で、過ごしやすい工夫がされています。園舎が老朽化しており、今後給食室の改造が計画されており、清潔で安心な給食の提供が期待されています。</p> <p>○古い造りのため、広々としたスペースを確保することは難しいが、一人ひとりの子どもがゆったり過ごせるよう、遊具の配置や椅子などが置かれ、工夫がみられます。今後も考慮されることが望まれます。</p> <p>○トイレは、こまめに修繕をし、安全への配慮がされていました。また、手洗い場には、年齢に応じた手洗い指導の写真や絵などの掲示がされています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>○個別懇談や個別記録などを通して、子どもの発達や家庭状況による個人差などを適切に把握し対応するよう努めていました。</p> <p>○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう、保育士がゆったりと対応し子どもの気持ちにそった言葉がけやスキンシップに心がけていました。</p> <p>○保育士は、子どもたちの発達に合わせた言葉づかいや声の大きき速さに留意して保育されていました。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>○自分でやろうとする気持ちを大切に、できたという達成感を味わえるようにしています。子どもの発達に合わせて、一人ひとりに合わせた基本的な生活習慣の習得ができる支援の工夫をしていました。</p> <p>○一人ひとりの子どもの状態を把握して、適切に対応するよう配慮されていますが、今後も養護と教育を一体的に考え、工夫されることを期待します。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなど人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○運動遊びプログラムを取り入れ、体を動かすことが楽しいと思えるように取り組まれています。</p> <p>○子どもから発せられた言葉から、遊びを作り出し発展していかれるような工夫が見られました。（廊下を利用して遊びの続きができるスペースの確保）</p> <p>○散歩などを通して、自然の中でのびのびと活動し小動物や草花などに触れ園内ではできない様々な体験をする機会を作るよう努めていました。</p> <p>○地域から親しまれ、気軽に声をかけてもらい、畑での土いじりや収穫体験などをさせてもらう中で、地域の人たちにも親しみを持つことができしていました。</p> <p>○保護者アンケートの回答に「環境に恵まれ、親子共に様々な体験をさせてもらっている」とありましたが、バラダのそり体験や未来館への遠足も実施され、社会や自然に関わる機会が設けられていました。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○発達が著しく個人差も大きい乳児期の保育にあたり、食事や睡眠等の基本的な生活リズムを整えながら、言語や運動機能の発達を促すような環境を作っていました。</p> <p>○子どもの発達をふまえた手作り玩具などを用意し、ゆっくりと優しく話しかけるなど、温かく受容的、応答的に関わり援助していました。</p> <p>○保護者との連絡ノートや送迎時のやり取りから健康状態の把握やその日の心身の状態、またできるようになったことを共に喜び合うなど保護者との連携が密にできていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 □ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	<p>○子どもの気持ちに配慮した温かいふれあいの中で、心と体の発達を促すよう、環境を整備し配慮されていました。</p> <p>○生活に必要な基本的習慣については、保護者との連携（連絡ノートや面談）を心掛け、一人ひとりの状態に応じた対応がされています。</p> <p>○子ども一人ひとりの興味や発達に合わせた生活や遊びの環境づくりや工夫が見られました。</p> <p>○3歳以上児との異年齢交流を積極的に取り入れ、思いやりと憧れの気持ちが持てるような環境づくりをしていました。また、散歩の際に地域の方に挨拶したり学校で飼育されているヤギへの餌やりなど、多様な経験ができていました。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>○生活の流れが分かり安心して過ごせるように、室内の環境整備（ホワイトボードに予定を表記するなど）の工夫や、遊びが細切れにならないようタイミングを見計らい声をかけるなどしていました。</p> <p>○子どもの興味関心を大切に、遊びの続きができるように、廊下に棚を設置しておく、スペースを区切りコーナー遊びを大切にするなど、環境が整えられていました。</p> <p>○5歳児クラスでは、集団遊びやゲームなどの中で、友達と協力して遊びを作り一つのことをやり遂げることを目指して保育が進められていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			⑧ 障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input type="checkbox"/> 51 建物・設備など、障がいに応じた環境整備に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 52 障がいのある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 57 職員は、障がいのある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 <input type="checkbox"/> 58 保育所の保護者に、障がいのある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	<p>○個別の指導計画が作成され配慮が必要な子どもへの適切な対応が行われています。(加配保育士の配置・職員間での情報共有と対応の一貫性)</p> <p>○室内の刺激を減らす環境づくりに工夫がされており、カーテンの使用や壁面装飾の簡略化などの実践がされていました。</p> <p>○保護者との連携を密にし、願いや対応の仕方などの方向性を確認して保育されることが望めます。</p> <p>○加配保育士だけでなく、担任も研修に参加し、研鑽に努めています。また、研修した内容も職員会などにて伝達し共有を図っていました。</p> <p>○園全体の保護者への情報提供は、園日より保健だよりなどで、適切に行われることを望みます。</p>
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<input checked="" type="checkbox"/> 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	<p>○長時間にわたる保育を利用する子どもが多く、子どもが過ごす環境に配慮が必要ですが、職員会等で状況の確認をきめ細かく行い、ゆったりと過ごせるよう工夫がみられました。</p> <p>○早期保育担当者が、午前中の保育に携わっているため、クラス担任保育士との連携がスムーズに行われ、朝礼などでも子どもの状態や保護者からの伝達など、引継ぎが行われていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	<p>○地元小学校との交流が積極的に行われ、子どもの不安な部分を理解し小学校への期待が持てるよう、交流の機会を活かしています。</p> <p>○年長児と保護者が出席する一日入学があり、小学校での生活や学習について見通しを持てる機会がありました。</p> <p>○入学までに育てほしい姿や、入学当初の生活を明文化した計画について、小学校との情報交換が期待されます。</p>
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 □ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○子どもの健康状態や発達・発育状態について職員間で確認し、常に把握をしていました。</p> <p>○保護者との連携を密にし、安全に集団生活が過ごせる配慮をしています。</p> <p>○SIDS等、午睡時に起こりやすい異変に対処するため、3歳未満児では午睡時に定期的にチェックをし、記録するなどの配慮が見られました。（0歳：5分に1回、1歳児：10分に1回、2歳児：15分に1回）</p> <p>○入園案内や保護者会総会などの場で園の安全対策について知らせているが、折に触れてSIDSへの研修参加や情報の提供を行うことが期待されます。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>○各種検診が計画に基づき実施されています。</p> <p>○佐久市全体の取組として、浅間病院と連携し、30年度から年長児のフッ素洗口による虫歯予防に努めています。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 □ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>○アレルギーの対応マニュアルが作成され全職員に周知徹底され、職員はそれぞれの役割を分担し組織的に対応が行われています。</p> <p>○調理員との連携、確認が確実に行われる仕組みがあり、調理室の中でも調理開始前、また途中など必要に応じて何回も確認する作業手順が組まれていました。</p> <p>○アレルギー対応食に使われる食材について、なるべく他の子どもたちとの違いがないよう工夫し配慮されています。</p> <p>○クラスの子どもたちに、理解できる範囲で説明し年齢によっては事故を防ぐ対応はされているが、保護者に向けたお知らせなどの工夫が望まれます。</p>
	(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>○給食室の廊下壁面に、食品を色別に分けた食育指導の絵が貼られ、園児の食への興味や関心につなげていました。</p> <p>○楽しい雰囲気の中、食欲旺盛に食べる姿が見られました。</p> <p>○食育計画が作成され、調理員も含めた全職員で取り組んでいます。</p> <p>○「やまほいく」の実施もあり体を十分に動かしておなかをすかせ、おいしくいただく、という流れが保育計画の中でも位置付けられていました。</p> <p>○食べられるものが増えるような配慮と言葉がけで、少しずつ食べられるようになった場面が見られました。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>○一人ひとり、その子が食べられる量や体調、好き嫌いを把握し、盛り付け量を配慮したりお代わりをしたりできるようにしています。</p> <p>○食材はできる限り地元産を使い季節感のある食事の提供に努め、園で育てた野菜も提供し、購入野菜と切り方を変えるなど子どもにわかりやすく親しみやすい提供をしていました。</p> <p>○衛生管理マニュアルに基づき安全で安心な食事の提供に努めています。</p> <p>○調理員により『給食だより』を発行し、レシピを載せるなど、家庭にも関心を持ってもらうよう努めています。</p>
	2 子 育 て 支 援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるように支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>○月々の園だよりや掲示板、日々の連絡ノートなどを用いて活動を知らせています。</p> <p>○必要に応じて、保護者の状況など週日案記録に記録をしました。</p> <p>○今年度から、保護者が1日に1人～2人が保育に参加して子どもの姿を理解し、日頃の子育てに生かしていただくことを目的に『保育参加』を行うなど、保護者と子どもの成長とともに喜べるよう共有し支援をしています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>○保護者からの相談や要求には丁寧に応じ、常に全職員で情報を共有しています。</p> <p>○保護者からの相談を受けた際のシステムについて、職員会等で共有することが望まれます。また、子育て支援課や専門機関へつなげる体制が整えられていました。</p>
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 □ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○虐待や不適切な養育態度が疑われる家庭への対応マニュアルがあり、必要に応じて速やかに関係機関と連携する仕組みができていました。また、守秘義務にも十分配慮していました。</p> <p>○日ごろから子どもの心身の状態を観察し、保護者との関りに配慮していました。</p> <p>○職員のアンケートから、マニュアルがあることを知らない職員がいるので、園内研修などで、周知を図るよう望みます。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 ■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>○日々の保育の反省、定期的な毎月の反省など、職員会や園内研修を通じて主体的に振り返りができています。</p> <p>○自己評価や指導案の評価・反省を活かし、保育の質の向上に向けた組織的な取組が更に充実することを期待します。</p>